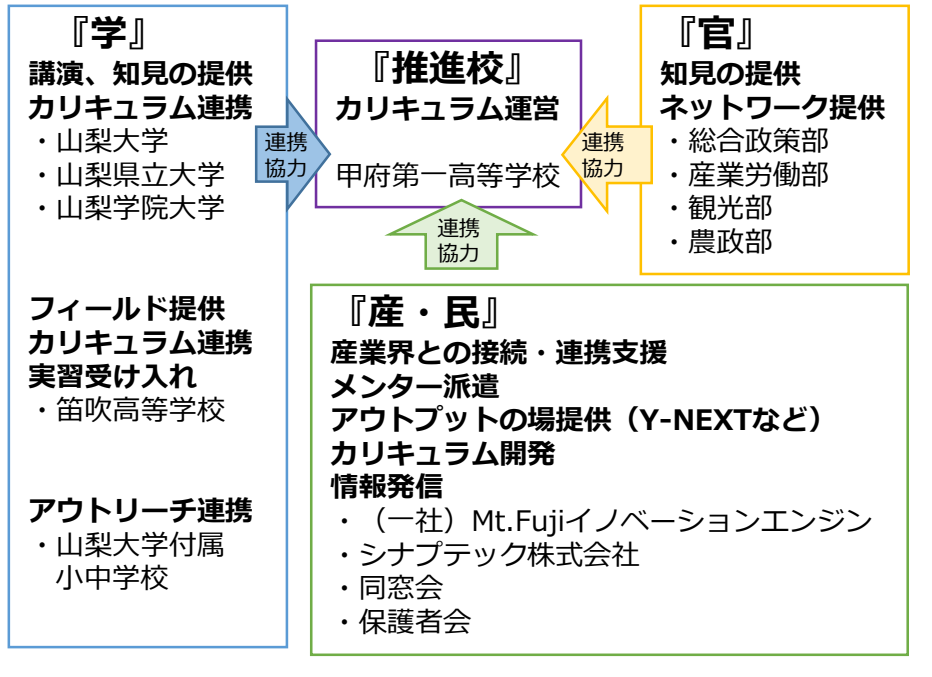


「やまなし創世」に資するグローバルリーダーの育成

DOOR 一扉を開いて

コンソーシアムの構成

やまなし創世に資するグローバルリーダーを育成するために、
 ・甲府第一高校を推進校とした産学官民のコンソーシアムを構築
 ・オール山梨で取り組む体制を構築



管理及び指導

・山梨県教育委員会 ・運営指導委員会 ・コンソーシアム推進協議会

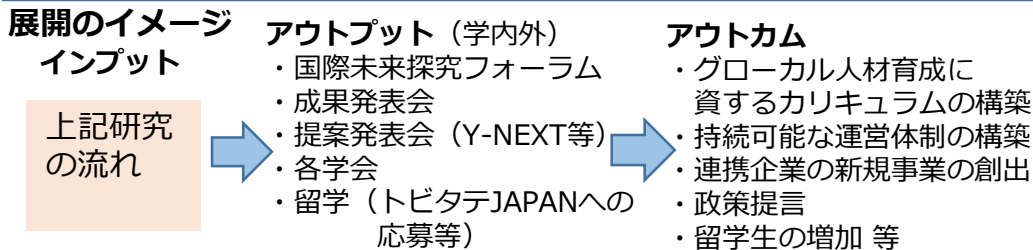
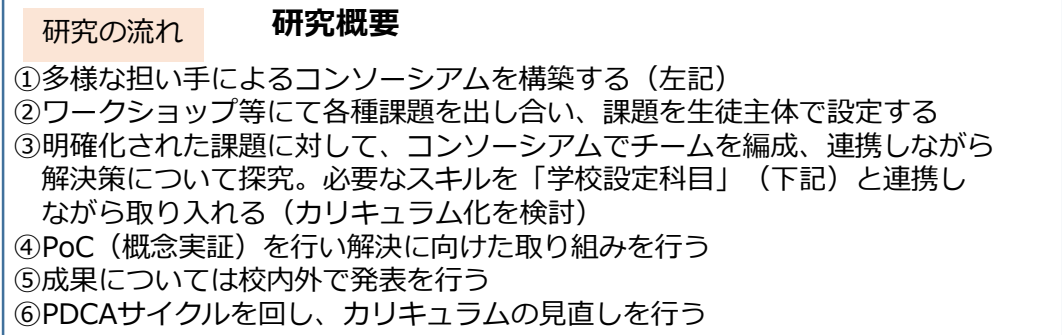
| 事業対象学科の生徒数 | | | | | 学校全体の生徒数 | | | | |
|------------|-----|-----|-----|------|----------|------|------|------|------|
| 学科 | 1年 | 2年 | 3年 | 計 | 学科 | 1年 | 2年 | 3年 | 計 |
| 探究科 | 70名 | 70名 | 80名 | 220名 | 探究科 | 70名 | 70名 | 80名 | 220名 |
| 探究科 | 70名 | 70名 | 80名 | 220名 | 普通科 | 180名 | 200名 | 200名 | 580名 |
| | | | | | 合計 | 250名 | 270名 | 280名 | 800名 |

研究開発の目標

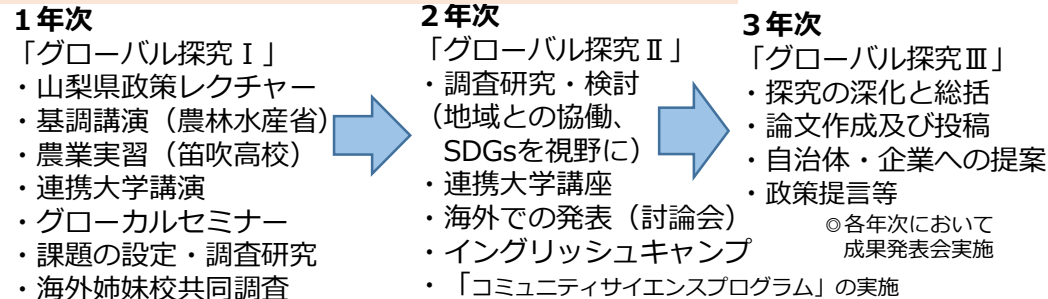
研究開発の背景

少子高齢化、急激な人口の減少 中心部の空洞化、都市の拡散、事業所数の減少等
 やまなし創世に資する人材＝グローバル人材の育成が必要

目標：『グローバル人材に必要な能力を育む体制やプログラムを構築すること』
 必要な能力「課題発見力、論理的思考力、創造力、コミュニケーション力、発信力」



学校設定科目（グローバル探究ⅠⅡⅢ）における流れ



地域との協働による高等学校教育改革推進事業 研究開発の概要
(令和2年度 新規指定校)

| | | | | | | | |
|-----------|--|--|----|----|-----|---------------------------|-----|
| 指定期間 | ふりがな | やまなしけんりつこうふだいいちこうとうがっこう | | | | ②所在都道府県 | 山梨県 |
| 令和2～最大3年間 | ① 学校名 | 山梨県立甲府第一高等学校 | | | | 県 | |
| ③対象学科名 | ④対象とする生徒数 | | | | | ⑤学校全体の規模 | |
| | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 計 | 普通科3学年15クラス 探究科3学年6クラス | |
| 探究科 | 70 | 70 | 80 | | 220 | | |
| ⑥研究開発構想名 | 「やまなし創世」に資するグローバルリーダーの育成 「 Door 一扉を開いて 」 | | | | | | |
| ⑦研究開発の概要 | 山梨県のような課題をSDGsと関連づけ、産学官民連携のコンソーシアムを通じ多様な人達と協働的に研究して、それらの成果を県内外や国外に発信する。また、国際フォーラムの開催などにより国際的な対話力を養い、ローカルな視点とグローバルの視点をもった課題解決能力を有した人材を育成し、山梨県における学びのモデルを開発する。 | | | | | | |
| ⑧研究開発の内容等 | ⑧-1全体 | (1) 目的・目標 | | | | | |
| | | <p>本県は果樹を中心に特色ある産地として発展してきた。しかし近年、担い手の高齢化や減少に伴い農業生産額は減少傾向にある。更にTPPなど経済の国際化を始め、農業を取り巻く環境が変動している。そこで、導入として山梨の農業に焦点を当て、連携先の笛吹高校の協力を得て実習を行う。その後、農業から派生する産業や観光及び環境などの様々な課題や山梨の強みについて、地域の小中学校、自治体及び地元企業及び海外留学生とともに地域活性化につながる探究活動をSDGsの視点で行い、国内外に発信する。それらの活動を通して山梨を活性化させる具体的な提案や活動ができる高度な問題解決能力を有するグローバル人材を育成する。そのために以下の3つを目標とする。</p> <p>①地元自治体や地域産業との連携を強みとする総合制高校との協働実践活動を行い、さらに留学支援団体からの留学生の受け入れや、派遣を積極的に行うことにより外国人と交流する機会を増やし、国際的視野を養い、グローバル人材に必要な能力を育成する。</p> <p>②コンソーシアムでの新たな学びの協働プログラムを開発する。</p> <p>③郷土愛を持ち、地域活性化に積極的にかかわり、将来、県内外・国内外を問わず「日本一快適で素敵な県」の創造に貢献できる人材を育成する。</p> | | | | | |
| | | (2) 現状の分析と研究開発の仮説 | | | | | |
| | | <p>SGH指定5年間及び地域との協働による高等学校教育改革推進事業「地域魅力化型」アソシエイト校としての1年間において、グローバルな視点、論理的・批判的思考力やコミュニケーション能力が培われ、海外に目を向ける生徒も増えてきた。また、地域課題に取り組むことにより、郷土愛が高まった。今後は、これらの成果を発展させ、次のような仮説を設定し、国際的な視野に立って地域課題の解決を協働的に行う。</p> <p>①コンソーシアムにおいて地域だけではなく、在県外国人、海外の留学生等の多様な人々とかかわり探究活動を行うことにより、異文化理解、課題発見力、論理的思考力、創造力、コミュニケーション能力、発信力が高まり、問題解決能力が育成できる。</p> <p>②協働的な取組により、新たな持続可能なプログラムが開発され、県モデルとして地域の発展に貢献できる人材育成を図ることができる。</p> <p>③地域研究や体験活動、商品開発や政策提案等の取組を通じ、県政や地域の産業および自然環境に関心を持ち、郷土愛が醸成され、将来県内外および国内外から山梨の活性化につながる具体的な提案や活動ができるようになる。</p> <p>④本事業を通じて教職員の意識改革を図り、教師の指導力の向上、多面的視野の拡大物事の本質を把握する力の向上により、学校全体として組織的・計画的に研究開発に取り組む体制を構築することができる。</p> | | | | | |

| | |
|----------------------------------|--|
| ⑧- 2 具 体 的 内 容 | <p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>□学校設定科目「グローバル探究Ⅰ～Ⅲ」</p> <p>文系・理系にとらわれず教科横断的な取り組みを行い地域の課題解決に向け、グローバル的・科学的な視点を育成するカリキュラムの開発を行う。全ての教科との連携、コンソーシアムの協力のもと、将来的に地元の課題を解決する本校の指導重点と合致したグローバル人材に必要な能力（課題発見力、論理的思考力、発信力、創造力、コミュニケーション力）の育成を目指す。</p> <p>【1年次：グローバル探究Ⅰ（2単位）山梨を見る】</p> <p>生徒が自ら農業から派生する山梨と関わる様々な課題を見つけ探究活動を行う。連携高校、地域の小中学校とも課題を共有し、実地調査・協働研究等で連携を深め、課題発見力、論理的思考力や基礎的なプレゼン力の向上を目指す。</p> <p>【2年次：グローバル探究Ⅱ（2単位）山梨の課題解決に向けたプランニング】</p> <p>生徒が1年次に設定した課題の再検討を行い、地域や社会からの新たな課題をSDGsの視点で再設定する。また、コンソーシアムと協働して課題研究を行い、海外の研修旅行先での提案活動や、意見交換、各種コンテストへの参加により発信力、実践的コミュニケーション能力を高める。</p> <p>【3年次：グローバル探究Ⅲ（1単位）山梨の魅力为全国へ、世界へ】</p> <p>3年間の集大成として、これまでの探究成果を自治体や企業等に提案する。また、報告書（論文）としてまとめ、後輩へ引き継ぐ事ができるように、連携校間で共有できるようデータベース化し、閲覧・活用できるようにする。さらに可能なものは課題研究から商品化、起業へと深化を図る。</p> <p>□なお、各学年において基礎知識として必要な異文化理解を深め、英語に限らず中国語等の語学学習を笛吹高校の生徒とともに長期休暇中に取り組む。また、検証については、専門家の支援を得ながら評価指標を用い、中間発表や年度末の成果発表会（討論会）を中心に、探究レポートやファイル、学びに向かう姿勢等の評価を、外部講師・保護者を交えて行う。</p> <p>□国際未来探究フォーラムの実施：海外留学生やコンソーシアムと連携し、SDGsを視野に入れながら、グローバル社会の中での将来の自身のキャリアを意識させるテーマで生徒が主体となってフォーラムを開催する。アドバイザー講師から講評をいただく。</p> <p>□海外からの留学生の積極的な受け入れ：YFU、ロータリー等の団体や、地方自治体を通じての留学生を積極的に受け入れ常時学校内に外国籍生徒がいる環境をつくり、国際色豊かな雰囲気醸成させる。</p> <p>□協働プログラムの開発：コンソーシアム内の自治体や企業等からの情報や協力を得て、農業やそこから派生する課題の調査・探究を行う。小中学校には協働研究や講義を実施し、成果発表会への参加を呼びかける。それぞれが持つ学校の特徴を生かせるような学校間の協働プログラムの構築を目指す。</p> <p>□探究の手引書の開発：探究活動を効果的に進めるための手引書を、甲府第一高校、笛吹高校で作成する。さらに、教師の指導力向上の為に県内の高校への普及を図る。</p> <p>(2) カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>海外交流アドバイザーにより、地域課題や政策・外国人との交流等の動向を把握する。校内推進委員会を中心に、グローバル人材の育成を実現する方策を練り、教職員で共有し実践する。コンソーシアム推進協議会で評価し、改善を図る体制を整備する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等（ ）内は単位数</p> <p>課題探究を行う学校設定科目「グローバル探究Ⅰ～Ⅲ」を位置づける。</p> <p>1年次「グローバル探究Ⅰ」（2）：「総合的な探究の時間」（1）情報科の「社会と情報」（1）を代替する。2年次の「グローバル探究Ⅱ」（2）：2単位中の1単位を「総合的な探究の時間の（1）」で代替する。3年次の「グローバル探究Ⅲ」（1）：「総合的な探究の時間」（1）で行う。</p> |
| ⑨その他 特記事項 | 特記事項なし |

※2頁以内（研究開発の実施体制の頁は含まない。）とすること。

【研究開発の実施体制】

管理機関名：山梨県教育委員会

1. コンソーシアムの構成（コンソーシアム推進協議会）

| 機関名 | 機関の代表者氏名 |
|---------------------------|---------------|
| 山梨県立甲府第一高等学校 | 校長 小林俊一郎 |
| 山梨県立笛吹高等学校 | 校長 井上 孝悦 |
| 山梨県立笛吹高等学校 | 企画研修主任 古屋 寛往 |
| 山梨県教育庁高校教育課 | 指導主事 大久保まさみ |
| 山梨大学生命環境学部地域社会システム学科 | 教授 渡邊 幹彦 |
| 山梨県立大学国際政策学部国際コミュニケーション学科 | 准教授 吉田 均 |
| 山梨学院大学国際リベラルアーツ学部 | 教授 ウイリアム・リード |
| (株)少國民社 | 代表取締役社長 依田 訓彦 |
| 甲府ロータリークラブ | 会長 依田 訓彦 |
| 山梨県立甲府第一高等学校同窓会 | 事務局長 金子 寛 |

2. カリキュラム開発等専門家，海外交流アドバイザー，地域協働学習実施支援員の体制

| 区分 | 氏名 | 所属 | 備考 |
|--------------|-------|--------------------|----|
| カリキュラム開発等専門家 | 戸田 達昭 | シナプテック株式会社代表取締役CEO | ② |
| 海外交流アドバイザー | 駒井マケイ | 山梨県教育庁高校教育課PA | ③ |
| 地域協働学習実施支援員 | 金子 寛 | 甲府第一高等学校同窓会事務局長 | ② |

※「備考」欄には、本事業における活用の形態別に①～③のいずれかの番号を記入すること。

- ①常勤：本事業のために管理機関又は指定校に配置され、管理機関又は指定校で常時勤務する者
 ②非常勤：本事業のために管理機関又は指定校に配置され、管理機関又は指定校では常時勤務するものでない者
 ③ボランティア：本事業のために活用されるが、管理機関又は指定校から賃金・謝金等の支払がされない者（①又は②に該当する者を除く。）

3. 運営指導委員会の体制

| 所属 | 役職 | 氏名 |
|-------------|------------|-------|
| 山梨大学 | 生命環境学域長 | 奥田 徹 |
| 山梨県立大学 | 国際政策学部長 | 八代 一浩 |
| 山梨県総合教育センター | 所長 | 廣瀬 浩次 |
| 山梨県知事政策局 | 政策企画グループ参事 | 斉藤 由美 |
| シナプテック株式会社 | 代表取締役CEO | 戸田 達昭 |

4. 経費

| 区分 | 金額（千円） | 備考 |
|----------|--------|----|
| 委託費 | 4870千円 | |
| 管理機関よる負担 | 千円 | |
| その他 | 千円 | |

※「その他」の欄を記入した場合には、備考欄に「寄付金」等内容を記入すること。

5. 本研究開発実施のための自財源確保の工夫（※該当する場合は、回答欄に○印を記入すること）

| 区分 | 回答 |
|--------------------------------|----|
| 本研究開発実施のために、企業版ふるさと納税制度を活用している | |
| 本研究開発実施のために、ふるさと納材制度を活用している | |